

施設紹介

町田慶泉病院 血管外科

新津勝士

町田慶泉病院は、東京都町田市の東名横浜町田インターチェンジ近くの町田街道沿いに建つ、141床（一般病棟51床、回復期リハビリテーション病棟47床、療養病棟43床）のケアミックス型の病院です。東名横浜町田インターチェンジを町田方面へ出て16号線に入るとすぐのところであり、車でのアクセスは良好です。JR横浜線・小田急線の町田駅からバスで15分、東急田園都市線すずかけ台駅、つくし野駅からはバスで5分ですが、東急田園都市線すずかけ台駅とJR横浜線成瀬駅で無料巡回バスを運行しています。

当院は1967年に診療所としてスタートし、時代の流れと地域のニーズに合わせて発展し続け、1972年に町谷原病院となり2005年には町田市の地域医療計画が見直される中で病院の規模を拡大し、現在の「町田慶泉病院」と名称変更しました。病院名の由来は、理事長である中西泉先生が慶應大学医学部卒業、同大学病院消化器外科出身であることから、「慶」と「泉」の文字を組み合わせ命名されました。

現在、血管外科・内科・外科・整形外科を中心にさまざまな診療科の診療を行っています。二次救急指定病院として24時間体制で救急医療に対応するとともに、回復期リハビリテーション病棟・療養病棟も設置し、ケアミックス型病院として急性期から回復期へと切れ目がないように医療を提供しています。訪問看護・訪問診療にも留意し、在宅における医療の充実にも意を払っています。また、ベッド数28床の透析設備も備えており、血液透析センターでは血液透析導入期、血液透析保存期や入院血液透析の患者様を幅広く受け入れ、年間約100例の維持血液透析症例の管理を行っています。透析シャント造設、透析シャントに関連した血管障害や種々の合併症に対しては、透析科と当科でスムーズな連携ができており、当科で迅速に対応しています。

当院は特定分野で強みを持ち選ばれる病院をめざ

し、とくに血管外科、整形外科に力を入れています。近隣にはこれらの疾患に対応できる施設が少なく、町田市だけでなく近隣の横浜市や相模原市、座間市、さらには静岡など地域を超えて来院されています。

2016年4月1日より血管外科を立ち上げ、末梢動脈疾患・静脈疾患・透析シャント関連疾患を3本柱とし、末梢血管全般の診療・治療を行っています。大血管疾患に対して手術は施行しておらず末梢血管疾患治療に特化しており、中でも末梢動脈疾患に関しては「下肢動脈血管内治療専門外来」を開設し、地域内・外の医療機関からの紹介を受けています。

血管外科常勤医は私1人ですが、外科常勤医・非常勤医の強力なバックアップもあり、2016年4月1日の開設から2020年3月31日までの4年間に総数1264件の手術を行いました。主な手術としては、末梢動脈血管内治療191件、下肢動脈バイパス術（内膜摘除術含む）12件、下肢静脈瘤レーザー治療344件、透析シャント血管拡張術397件、透析シャント造設術137件の手術件数となっています。末梢動脈血管内治療は全例血管造影室ではなく手術室で施行し、想定外のトラブル時にも直ちに対応できる体制で行っています。

当科の特徴としては、日本心臓血管外科学会専門医および日本心血管インターベンション治療学会認定医を同時取得していることもあり、とくに末梢動脈疾患治療において外科手術とカテーテル治療を両立し、それぞれの利点を最大限に活かした治療を行っています。またEBM（Evidence-Based Medicine: 根拠に基づく医療）を重視しながら外科的・内科的治療の両面から総合的に評価することにより、個々の患者様にあったバランスのとれた最適な治療を提供し、安全かつ確かな美しい手術をモットーとして掲げています。

末梢動脈疾患治療に関しては、外科手術あるいは

カテーテル治療だけでは治療困難な症例に対してハイブリッド手術を積極的に行っています。また、より低侵襲な治療を積極的に取り入れ、可能な症例に対しては橈骨動脈や足背動脈からのアプローチで血管内治療を行っています。

将来的には、外科手術とカテーテル治療をともにできる二刀流医師や末梢動脈疾患・静脈疾患・透析シャント関連疾患をバランスよく診療・治療できる医師の指導・育成、さらには末梢血管治療に特化した部門の開設を目標とし、日々さまざまな難関症例

に立ち向かい、邁進していきたいと思っています。末梢血管にご興味のある先生がおられましたらいつでもご連絡ください。

最後に、このような機会を与えてくださった脈管学会の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス（COVID-19）感染の拡大防止・収束に向けて日々ウイルスに立ち向かい、最前線で尽力されている医療従事者の皆様に心から感謝申し上げます。